

環境ベテランズファーム Webセミナー (2023年7月)

**講演テーマ: 人生のファイナルステージをどうすごすか
終活における尊厳死の考察**

**講師: 公益財団法人 日本尊厳死協会
丹澤 太良 様**

講師略歴:

- **1947年生まれ(75歳)東京都出身**
- **航空会社を定年退職後、母の尊厳死を看取った経験から、協会理事に就任。**
- **関東甲信越支部長、中国地方支部長を歴任。現在は支部顧問。主に、セミナーの講師を担当。**

趣味: 音楽鑑賞 特にモーツァルト

好きな言葉: 「健やかに生きよう! 安らかに逝こう!」

人生のファイナルステージをどう過ごすか

終活における尊厳死の考察

7月28日 環境ベテランズファーム



公益財団法人日本尊厳死協会

丹澤 太良

医療はこれまで人生途上の「病い」や
「外傷」を対象に「救命」に徹してきたが、
今や「高齢」の人が増え「人生最終章」への
対応が問われている。



石飛 幸三 先生

憲法13条(幸せの追求権)

全ての国民は個人として尊重される

生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で最大の尊重を必要とする



人は皆、幸せを追求する権利がある



尊厳死運動=基本的人権運動

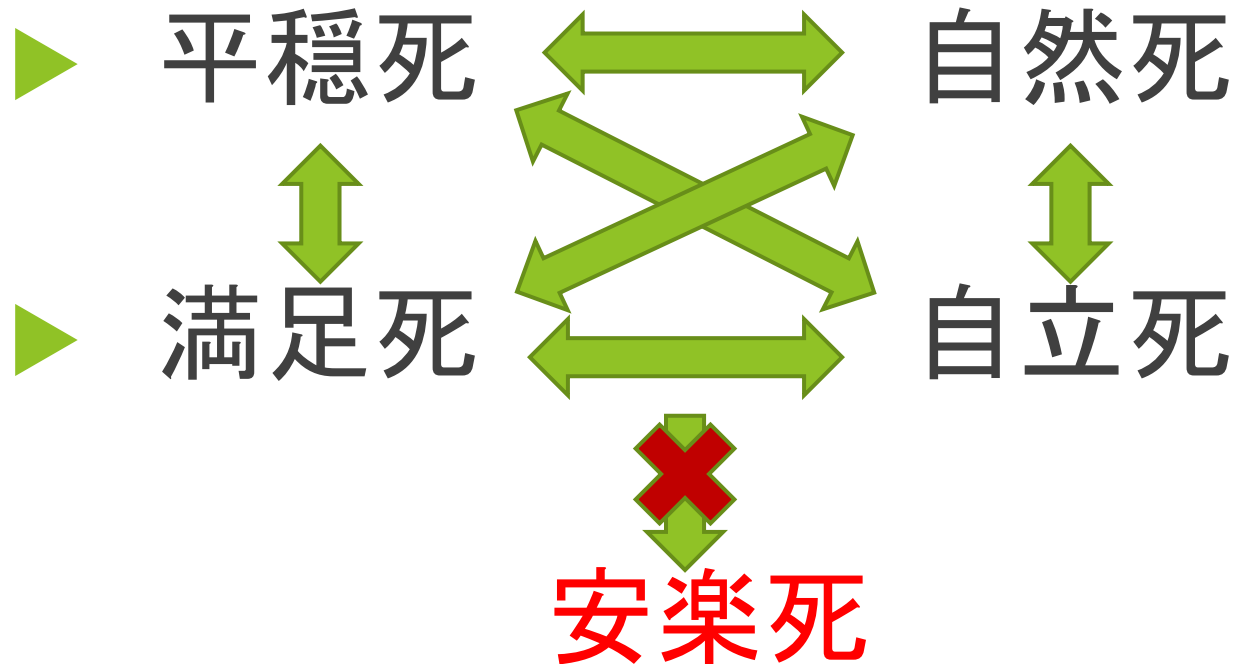
尊厳死とは

尊厳死とは、不治で末期に至った患者が、本人の意思に基づいて、単に死期を引き延ばすためだけの延命処置を受けないで、自然の経過のまま受け入れる死のことです。自然死と同じ意味と考えます。本人の意思は健全な判断のもとで自発的に決定されることが大切です。

尊厳死は生の放棄ではなく、自分の意思で過剰な延命医療を拒否して、自分らしく尊厳を保ったまま最期を生き、迎える死です。

従って、苦しむ患者の要請により、医師が直接薬物を投与して患者を死なせる「安楽死」、あるいは患者の要請で医師が処方した致死薬を患者自身が飲む「医師による自殺ほう助」とは、基本的に異なります。

「尊厳死の同義語」



尊厳死と安楽死は違うの？

- ▶ **安楽死**: 終末期患者の痛み苦しみを取り除く手段として、「死」を与える行為。
つまり、患者を死なせることによって、痛み苦しみから解放させる。
- ▶ **尊厳死**: 延命治療をやめ、緩和医療によってQOLを大切にする。
故意に命を短くすることはせず、自然に任せる。

尊厳死を阻むもの(尊厳死の抵抗勢力)

1. 医療の問題

医師の倫理 「延命至上主義」 → 「死」は**敗北**

2. 家族の問題

とにかく生きていてほしい → 善意の**エゴ**

本人の意思不明 → 家族間で意見が分かれる

3. 法律上の問題

医師が訴追される**リスク**

4. 社会制度の問題

病院経営の問題 本人の年金が頼り

5. 日本人の死生観の欠如

死を語らない 避けてとおる 忌み嫌う

安楽死・延命治療・尊厳死

安楽死 → 命を故意に短くする

延命治療 → 命を故意に引き延ばす

尊厳死 → 命を故意に短くしない
命を故意に引き延ばさない



自然に任せる = **自然死**

(ただし緩和ケアは必要！)



緩和ケアとは？

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面する患者と其の家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメント対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチである。

具体的には

※痛み・苦しみからの解放

※死を自然の過程と認め、早めない、引き延ばさない

※死を迎えるまでのQOL向上を支える

※患者及び家族を支える(死後のグリーフケアを含む)

※早い段階からの適用

では、どうすればいいの？

どうしたら尊厳死出来るの？



絶対はないが、思い描いておく(デザインしておく)ことは必要

そして

リビングウィルの勧め

尊厳死協会は、リビングウィルを啓発しています

最近では、入院時にリビングウィルの記入を求められることが多いです

終活ノートにリビングウィルの記入欄があります



リビングウィルとは



「命の遺言状」「尊厳死の宣言書」

「終末期医療における事前指示書」

自分の終末期の過ごし方を決める(決めておく)

意思決定能力のあるうちに自分の終末期医療の内容について希望を述べる。(書いておく)

単なる延命治療を事前に拒否する意図で行われる場合が多い。

尊厳死協会のLW

- ①私に死が迫っている場合や、意識のない状態が長く続いた場合は、死期を引き延ばすための医療処置は希望しません。
- ②ただし私の心や身体の苦痛を和らげるための緩和ケアは、医療用麻薬などの使用を含めて充分に行ってください。
- ③以上の2点を私の代諾者や医療・ケアに関わる関係者は繰り返し話し合い、私の希望をかなえてください。

アドバンス・ケア・プランニング (ACP: Advance Care Planning)とは

将来の変化に備え、**将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセス**のことです。

患者さんの人生観や価値観、希望に沿った将来の医療及びケアを具体化することを 目標にしています。

人生会議とは

「人生会議」とは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の愛称です。あなたの大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて自ら考え、また、あなたの信頼する人たちと話し合うことを言います。

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。あなたがそのような状況になったとき、家族などあなたの信頼できる人が「あなたなら、たぶんこう考えるだろう」と、あなたの気持ちを想像しながら、医療・ケアチームと、医療について話し合いをすることになります。その場合にも、あなたの信頼できる人が、あなたの価値観や気持ちを知っていることが重要な助けとなるのです。

人生会議を重ねることで、あなたが自分の気持ちを話せなくなった「もしものとき」には、あなたの心の声を伝えることができるかけがえのないものになり、そしてまたあなたの大切な人の心の負担を軽くするでしょう。

厚生労働省ホームページより（抜粋）

ACP「人生会議」のまとめ

- ※患者さんの意思を尊重した医療及びケアを提供し、尊厳ある生き方を実現することがACPの目的です。
- ※医療及びケアの提供は、患者さんの意思が一番大切です。それを確認するために、ACPの実践が必要です。
- ※患者さんが意思を明らかにできるときから、繰り返し行い、その意思を共有することが重要です。
- ※患者さんの意思が確認できなくなったときにもそれまでのACPをもとに患者さんの意思を推測することができます。
- ※かかりつけ医を中心に多職種が協働し、地域で支えるという視点が重要です。

日本医師会ホームページより（抜粋）

死期が来たのを感じて、「ありがとう……………」

せっかく最期の言葉を残してあの世に行こうとしているのに、それ強心剤だ、やれ点滴だ、心臓マッサージだと無理やり引き止められ、気がついたらまだ生きているではないか。

そこでまたやり直し。「ありがとう、さようなら」という。

そして死んで行こうとするのにまた襟髪掴んで引き戻される。

振り切って死ぬにも、点滴に縛られて、氣息奄々生きさせられる。

ああ、いったい私はどこで「ありがとう」を言えばいいのか。

現代の科学が神の意思と戦うのは勝手だが、科学と神の間でウロウロするほうはたまらない。

生きるのもタイヘンだが、今は死ぬのもタイヘンなのである。

佐藤愛子の箴言集

ああ
面白かった
と言つて
死にたい

佐藤愛子

sato aiko

波瀾万丈
の日々が
紡ぎ出した
人生の真実!

海竜社 定価 本体880円＋税

尊厳
券

元気に生まれて楽しく生きる
泣いて生まれて 笑って逝きたい



ご静聴ありがとうございました



公益財団法人日本尊厳死協会
理事 丹澤 太良